

| | |
|---------|---|
| 申請者 | 中村 忠司 |
| 所属 | 東京経済大学 コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 |
| 調査課題 | 海外就業体験を中心とした異文化対応力育成教育に関する研究 |
| 調査研究の趣旨 | 海外インターンシップ研修を通じた異文化理解および対応能力を高めるための教育方法の確認とその評価方法の策定を行う。 |
| 内容 | <p>海外オンライン研修調査とマレーシアでの海外研修関係受入先ヒアリング調査を実施した。また学生用の教材として1つのテキストを検討した。</p> <p>①海外オンライン研修調査(研修運営:フィリピン・エンデランカレッジランゲージセンター) 語学グループ・レッスン+PBL 型研修+キャリアセミナー 実施期間:2025年2月3日~2月7日(5日間) 参加学生 17名(2年次生)</p> <p>②マレーシア海外研修受入先ヒアリング調査(サンウェイ大学・インターナショナルオフィス) 調査日:2025年2月21日</p> <p>③海外研修教材の検討(海外危機管理小冊子) 『海外留学危機管理ハンドブック』 海外留学生安全対策協議会(2020)</p> |
| 成果 | <p>総評</p> <p>①海外オンライン研修調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外オンライン研修については、2020年度より試験的に学部内で実施し、その効果を検証してきた。2024年度までに延べ135人がオンライン研修に参加した。これらの実績に基づき2024年度には正規の科目として異文化理解 B(海外短期オンライン研修)をフィリピン・エンデランカレッジ・ランゲージセンターが研修を運営する形で開講するに至った。この授業は何らかの理由で、海外渡航を伴う海外研修に行くことのできない国際コミュニケーション学科の学生が履修する授業である。来年度以降も正規の授業として継続することが決まっており、複数年に渡る調査研究助成の大きな成果となった。 ・調査対象とした海外オンライン研修は、フィリピン・エンデラン大学のエンデランカレッジ・ランゲージセンターの運営による研修である。研修内容は、語学研修としてグループ・レッスン(フィリピンの文化とサステナビリティ)、PBL 型研修(観光に関する課題解決)、NPO法人 DEAR ME の理事による「海外で働くこと」をテーマにした日本語のキャリアセミナー、修了式である。昨年度との違いは、マン・ツー・マン・レッスンのかわりに PBL 型研修を採用し、オンライン研修での効果を検証した点である。 ・オンライン研修の利点として、現地に行かなくてもネイティブの先生と話す体験ができることが挙げられる。また英語が聞き取れない場面でも、チャットを使って確認できるなど技術面でカバーしやすいことがある。 ・グループ・レッスンでは、フィリピンと日本の文化の違いについて学ぶことで自国の文化を見直す機会となったことを複数の学生が挙げている。 ・PBL 型研修では観光に関連するテーマとして「日本人観光客にとってのマニラとバンコクの観光魅力度の差 Why is Bangkok more popular? What is Manila missing?」が課題として提示され、小グループに分かれてブレイクアウトルームを使ってディスカッションし、プレゼンテーションを最終日に行った。ここでも他国の課題を知り、それについて考えることで自国の課題について考えるきっかけとなったなどの意見があった。 ・キャリアセミナーでは、現地でファッションを通じて子供たちの支援活動を行っている NPO 法人の理事から、 |

活動の意義やその活動に参加している大学生のやりがい、海外で働くことについての講話を行った。ある学生はセミナーを通じて「貧困で苦しんでいる地域の人たちのために、自分にできることは何かを今一度考える時間となった」と述べており、同じ大学生が活動に参加していることを知ることで、自分事として考えることができるようになった。

・異文化理解では、「グループ研修でフィリピンと日本の文化の違いについて考える時間があり、日本の文化の良いところ悪いところ、フィリピンも同様に考えた時に、それぞれの国には独自の文化があり、伝統的なものもある為、自国と比べて他国の文化を評価するのではなく、他国の文化もその国の文化として理解し、尊重しようという考えになった。フィリピンの文化を学ぶことで、自分がいかに日本の文化を語れない、知らないということに気づききっかけとなった」という意見があり、他国の文化を理解しようとするのが、自国のことをもっと理解しなければならないという気づきのきっかけにもなっている。

②海外研修受入先ヒアリング調査について

・調査は、マレーシア・セランゴール州にある私立サンウェイ大学インターナショナルオフィスを訪れ、日本の学校との国際パートナーシップやリクルートメントを担当する方を対象にヒアリング形式で行った。

・調査目的は、①サンウェイ大学としてのグローバル化の中での構想。②日本の留学生向けとして具体的にどのようなプログラムを提供されていて、人気があるのはどのようなプログラムなのか。他国からの留学生と日本からの留学生の意識の違い。などである。

主な回答としては、以下の通りである。

・大学は国内および海外の不動産開発、ホスピタリティ、小売、レジャー、商業施設を持つサンウェイ・グループの1部門である。その中に SUNWAY EDUCATION という教育セクションがあり、UNIVERSITY、COLLEGE、INTERNATIONAL SCHOOLS がある。

・大学はテーマパーク、ホテル、ショッピングセンター、病院、住宅のあるサンウェイ・シティの一角にある。施設はキャンパー・ウォークでつながっている。学生向けのレジデンスも充実している。

・欧米豪の大学との国際パートナーシップが充実している。多くの学部で英国ランカスター大学とのデュアルディグリーがある。ホスピタリティ系の学部は国際料理機関のル・コルドン・ブルーと提携している。

・大学として正式に認定されたのが2011年と新しいが、世界ランキングの上位を意識し、トップランクの教授の招聘、論文引用数など研究に力を入れている。研究所数も18ある。

・SDGsを徹底して推進している。サステナブル研究のアジア拠点である。授業でもSDGsは必修であり、ペットボトルの持ち込みが禁止されている。学生は給水コーナーで水筒に給水する。

・留学生は約75カ国から約2,000人(全体の2割)が来ているが、3割に増やす目標を立てている。インターナショナルオフィスはワンストップセンターとして様々な対応をしている。WhatsAppを活用した24時間のホットラインもある。

・日本からは大学で100人、カレッジで100人くらいが在籍している。高校生は大学進学準備としてFoundation Courseで留学するケースがある。大学生はセメスタ留学や夏期春期の休みの期間に10週間の英語プログラムがある。短期留学のインターンシップは大学ではアレンジしていない。

・正規の学生は3か月のインターンシップが必修である。ホスピタリティ&サービス・マネジメント学部はホテル、コンベンション、イベントサービスなどのインターンを受ける。学生の意識はマネジメントであり、単にホスピタリティ産業で働きたいということではなく、自分の店を持って起業するなど経営の視点が強い。

・日本と他国からの留学生の大きな違いは、他国は学位を求めて留学するが、日本の場合は留学という経験にとどまることが多い。

| | |
|------|---|
| | <p>③海外研修教材の検討(海外危機管理小冊子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルな海外就業体験研修(オーストラリア、フィリピン)に参加する学生 19 名に『海外留学危機管理ハンドブック』を読んでもらい、どのようなことが役立つかについて感想を聞いた。 ・写真や動画を撮る際に配慮を行う。無意識のうちに差別を行わないようにする。自分の身は自分で守る意識を持つ。→事前に備え、危険を回避するリスクマネジメント。 ・クレジットカードを紛失した際の連絡先、パスポートコピーと証明書写真、ETA(電子渡航許可)のコピーを持っていく。日本から常備薬を持っていく。→何かあった時にダメージを減らす回復のためのクライシスマネジメント。 |
| 成果報告 | <ul style="list-style-type: none"> ・2025年3月11日 東京経済大学コミュニケーション学部 FD 研修において報告。 ・今回の海外受入先ヒアリング調査については、大学ホームページ内の以下の学部特設ページでも報告。 https://note.com/tokecom/n/nbf6acdd9d7a2 |
| 別添資料 | <p>FD 研修資料パワーポイント 2024(個人の写真等を含むため、WEB などでの公開はお控えください)</p> <p>FD 研修・現地調査等学内共有報告資料 2024</p> <p>研修学生向け学内説明資料 2024</p> |